



京都大学2005年度特別公開講座  
B-LIFE21寄附講座



京都大学全学共通科目 環境政策論 I B

# 地球環境：企業と市民社会の対話と協力

## 総合討論 明日への一歩

(受講生アンケートから)

千葉商科大学 政策情報学部

教授 三橋規宏

京都大学経済研究所  
先端政策分析研究センター

教授 一方井誠治

司会

京都大学大学院 地球環境学堂

教授 松下和夫

# これまでの講義（1～6回）

- 10月 6日 三橋 規宏（B-LIFE21事務局長、千葉商科大学教授）  
地球限界時代の企業経営
- 10月13日 岡部 敬一郎（コスモ石油会長）  
化石燃料と環境 — 持続可能な発展に向けて
- 10月20日 福地 茂雄（アサヒビール会長）  
アサヒビールの環境経営
- 10月27日 栗和田 榮一（佐川急便会長）  
佐川急便の環境戦略 ～ 交通分野における企業の社会的責任
- 11月10日 杵本 育生（NPO法人環境市民代表理事）  
持続可能な社会をめざして NGOと企業のパートナーシップの可能性
- 11月17日 加藤 尚武（前鳥取環境大学学長）  
環境倫理学の今

# これまでの講義（7～12回）

- 12月1日 藤村 宏幸（荏原製作所名誉会長）  
バイオマスを資源とする新しい社会創り
- 12月8日 岡田 卓也（イオン環境財団理事長）  
イオンの社会貢献活動
- 12月15日 佐和 隆光（京都大学経済研究所長）  
地球温暖化対策の経済影響
- 12月22日 関 正雄（損害保険ジャパンCSR・環境推進室長）  
揖保事業の視点から環境経営を考える
- 1月12日 新田 恭子（NPO法人セカンドハンド）  
チャリティシップと国際協力
- 1月19日 三橋規宏、一方井誠治（京都大学経済研究所教授）、松下和夫  
企業と市民社会の対話と協力（まとめと討論）

# 総合討論

Part 1

- 環境と経済
- リサイクル

編  
編

Part 2

- エネルギー
- 気候変動

編  
編

Part 3

- 発展途上国

編

Part 4

- 対話と協力
- その他

編  
編

**Part1~4まで  
各20分ずつ**

TAが関連する受講生アンケートを紹介し、それをもとにパネリスト、会場との意見交換を行う。

環境と経済 編 ①～⑤

# 環境と経済① (第1回講義より)

- フロー重視の社会からストック重視の社会に変わるにつれ、生産する必要がなくなる為におこる生産業→サービス業への変化とそこから起こる仕事についていけない人達の増加に対してどのように考えておられますか？ (工1回 W.T)

## 環境と経済② (第1回講義より)

- 大企業が環境に配慮した企業経営を行うのは資金的に余裕があるため実現しやすいと思うが、中小企業、新設企業がそういった企業経営を行いながら業績を伸ばすことが現実的に可能なのか、またその中で問題となり得ることは何かを質問したかったです。(農1回 F.K)

## 環境と経済③ (第4回講義より)

- ただ、環境をビジネスとしてとらえると、自力で環境対策をできる企業(=大企業、高収益企業)だけが残るようになると思います。甘い考えかもしれませんが、例えばCO2削減のノウハウ等を大企業が中小企業に安価で提供していくことはできないのでしょうか？  
(総人4年 W.F)



## 環境と経済④ (第8回講義より)

- 企業として植林などの環境保全活動に資金を拠出されているのは分かったが、小売業として、モノの消費の在り方への提案などはないのか？大量消費が批判され始めた昨今、消費者の購買意欲を鼓舞するばかりではいけないと思うので。(総人2回 S.M)

## 環境と経済⑤ (第6回講義より)

- 持続可能性という言葉のもつ意味で長年にかけてどれだけ議論されてきたのかを感じる事ができた。昔の学者達の考えは多少甘すぎるものだと思う。今の資源の現状を彼らが見れば、即座に自らがした意見の未熟さを恥じるだろう。(経済1回 Y.M)

リサイクル 編 ①～③

## リサイクル① (第3回講義より)

- 100%のリサイクルというのは単にゴミにしてしまうよりも余計なエネルギーがかかってしまうこともあると思いますが、それはどう考えていますか？(工1回 Y.N)

## リサイクル②（第3回講義より）

- 容リ法完全施行5年という節目を向かえ、現在再検討の議論がなされており、特にペットボトルの国内リサイクル事情は非常に厳しい状況になっています。このような状況に大きく関わる企業のトップとして、どのような考えをお持ちなのかお聞きしたかったです。（農2回 Y.T）

エネルギー 編 ①～⑥

# エネルギー① (第3回講義より)

- 日本には自動販売機が多く設置されすぎているように思われます。ジュースもお酒も(特に都会では)コンビニエンスストアで24時間手に入るにもかかわらず、道路わきには自動販売機が乱立しています。自動販売機は多くの電力を消費すると思うのですが、あれだけの設置は飲料の供給側から見て本当に必要なのでしょうか？(法1回 T.A)

## エネルギー② (第2回講義より)

- 石油は結局何年もつのだろうか？また、枯渇した際エネルギーの切り替えがすぐにできるように準備は整っているのか？ということ疑問に思いました。(E1回 K.Y)



## エネルギー③ (第7回講義より)

- バイオマスを利用した環境産業という考え方には共感できる。しかし、単独の企業の努力だけで環境産業およびそれを支える社会の基盤を成立させることができるとは思えない。我々はいったいどうすればそれに協力できるのだろうか。(農1回 M.Y)

## エネルギー④ (第7回講義より)

- 現在のバイオマス利用の技術では、日本のエネルギー需要の何%くらいをまかなうことが将来的に可能だと思われますか。(医2回 K.S)

## エネルギー⑤ (第7回講義より)

- バイオマスを収集するのにエネルギーがかかる、というのはもっともだと思いました。効率のことを考えれば、集めて大規模に処理すべきなのはわかりますが、大規模にするだけではなく「地産地消」あるいは各家庭においてもサイクルは可能ではないかと私は思っているのですが、いかがでしょうか。個人個人の環境に対する意識が高まっていることを考えれば、十分それも意味のあることなのではないでしょうか。(理1回 Y.R)

## エネルギー⑥ (第4回講義より)

- ディーゼルトラックを天然ガス仕様車にシフトしていくことは大変素晴らしいことだと思いますが、「持続可能」かということそうではないと思います。この先必ず天然ガスは枯渇します。そうなったとき佐川急便はどのような対策を講じるのでしょうか？この先ずっと佐川急便の環境に対する考えを実行し続けるためにこれは避けて通れない問題ではないでしょうか？(工1年 M.K)

# 気候変動 編 ①～③

# 気候変動① (第9回講義より)

- 京都議定書のスタンスの違いが「哲学」「思想」の域まで深いものであることは同意できるが、そうであるからこそその差異を埋めていくことはより困難なのではないか？ (立命館大学 O.Y)

## 気候変動②（第9回講義より）

- 地球温暖化対策における経済の問題は大きな割合を占めると思うのですが、現在日本政府はどのくらいこの問題を重要に捉えているのかということが疑問です。このようなことに対して日本で報告や報道があまり多くないのは、日本政府であまり議論が進んでいないのか、それとも他の国に比べて国民の関心がうすいのかどちらなのでしょう。（総人2回 K.K）

## 気候変動③ (第9回講義より)

- 発展途上国におけるCO2排出量の増加については、どう思いますか？ (理1回 Y.M)



発展途上国 編 ①～③

# 発展途上国① (第1回講義より)

- 中国やインドなどのまだストックが十分に蓄積されていない発展途上国では、大量生産・消費・廃棄の時代を経ないと成長できないのでしょうか？それとも先進諸国と同時に、資源節約型の社会に移行することができるのでしょうか？(経済1回 S.S)

## 発展途上国② （第2回講義より）

- 人口増加と焼畑農業を結び付けて述べておられたが、いまいちその必然性を認識することができなかった。また、全ての焼畑農業が地球環境に悪いというのではなく、寧ろ5～10年のインターバルを置くことで効率的な農業を営むことができるという反論・批判もあり、傾聴に値するものと思われる。（人環M1 O.H）

## 発展途上国③ （第3回講義より）

- 今後、中国などへの海外進出も行われるかもしれませんが、その際には、海外の国とも協力して環境問題に取り組んでいく必要がありますが、どのようなことに注意していくべきだと思いますか。（総人2年 S.Y）

# 対話と協力 編 ①～⑤

## 対話と協力① (第3回講義より)

- 企業の中でもかなり高いレベルで環境対策をしていましたが、他企業(麒麟など)とか、まったく関係のない企業とかと環境対策を協力したりしないんですか？(理1回 M.T)

## 対話と協力②（第10回講義より）

- CSRは「自主的」に進められるという点が利点と考えられますが、ISO化され「取得するために頑張る」という傾向になってしまう企業も現われ趣旨から少し離れてきてしまうのではないかと考えます。どうでしょうか？取り組んで取得をしようとする時点で「自主的」だと考えられるのですが、ISOではどこまでが「自主的」と見なされるのでしょうか？（京都女子大学 I.S）

## 対話と協力③ (第3回講義より)

- アサヒの環境に対する取り組みはすばらしいと思います。この取り組みは世間にあまり知られていないように思いますが、それをアピールする or しないという判断はどのような観点でするのでしょうか。(文1回 H.Y)



## 対話と協力④ (第7回講義より)

- 技術が社会で使われるためには、やはりビジネス面は避けて通れないわけで、その意味で企業は技術と社会をつなげる役目を担っていると思います。環境問題をビジネスとして取り組むことは意味のあることですね。(理1回 H.Y)

## 対話と協力⑤ (第5回講義より)

- ドイツで環境に対する取り組みが盛んな理由は、国民性にあるのではないかと漠然と思っていました。政府の援助が手厚いということですが、そういう政策を実行しようとする気質があるのでしょうか？(一般 T.Y)

その他 編 ①～④

## その他① (第5回講義より)

- 講義の前半で、今の日本社会構造が変わらないと環境を守れないというようなお話がありましたが、ではどうすれば社会を変えられるのか先生のご意見をいただきました。 (工1回 E.T)

## その他② (第5回講義より)

- (省略)日本人はやはりまだまだ情報力不足であると思うし、環境への企業の取り組みも知る機会が少ないと思います。外国のことについてももっと知る機会を増やすためには、どのようにすればいいか何か方法はありますか。(総人2回 K.K)

## その他③ (第6回講義より)

- 現在のエネルギー政策・対策について問題は出されたが、この解答に少しでも近付ける為のヒントを与えるような書籍等はないでしょうか？(一般 O.S)

## その他④（第11回講義より）

- 今の学生に望むものがあればお願いします。  
（農2回 Y.S）

## その他⑤ (第11回講義より)

- やっぱり、外国の多くの国に行くと、行けは行くほど視野は広がるものなんだろうかと疑問に思いました。視野が広がるとは、どういう事なんのでしょうか。私が海外に行ったとしても「こんな所があるのか」で終わってしまうようなきがするので、ただそれだけで他に何の役にも立たない気がして「視野が広がる」とはどういう事なんだろうと前々から思っていたので、ここに書きました。(総人1回 I.A)



## その他⑥（第1回講義より）

- どうして、新聞社の一記者という立場で、多くの大物経済人を巻き込んだNPOを作ろうと思ったのか？よほど強い社会的使命感をもってらっしゃるのか？（総人2回 S.M）

# 講義資料の入手方法

- 京都大学 Open Course Ware
  - <http://www.ocw.kyoto-u.ac.jp/jp/index.htm>
  - 全学共通科目→環境政策論 I B→講義ノート
- B-LIFE21 ホームページ
  - <http://www.zeroemission.co.jp/B-LIFE/>
- 松下和夫研究室 ホームページ
  - <http://www.users.kudpc.kyoto-u.ac.jp/~q52535/>

それぞれ、検索エンジン(Yahoo!、Googleなど)で検索していただいても、アクセス可能です。